



19日、香川県庁で日本共産党香川県委員会、池田豊人香川県知事宛てに、高松港の「特定利用港湾」の指定に協力しな

いことを要請しました。日本共産党中谷浩一香川県委員長に、かし昭二香川県議、白川よう子衆院四国比例、石田まゆ衆院香川二区両候補が同席しました。

# 高松港の特定利用港湾指定に反対を要請

中谷氏は政府からの聞き取りの中で県の説明に大きな間違いがあり「特定利用港湾の指定は平時から有事まで一体化して高松港を軍事態勢に組み込むものだ」と指摘。かし氏は「県議会でも国の協

議に進展があればその内容を説明するという約束があったが国との確認書もまだ公表がない」と抗議。白川氏は「軍事拠点は攻撃対象になるといふことを県民は一番懸念している」と強調。県への要請内容は①県民への説明の機会を作るよう国へ要請し、県は国

のやり取りの内容を県民へ知らせること②県民合意もないまま勝手に3月末までに国との確認書を書くことはやめ、特定利用港湾の申し入れを拒否すること③平和都市宣言にふさわしく、国にたいして軍事ではなく外交で解決するよう主張することです。

## 新しい政治をつくる「春のつどい」を開催

日本共産党香川県委員会、後援会、国政事務所共催で新しい政治をつくる春のつどいが20日、高松市で開かれ約350人が参加しました。



第一部(前半)は、バイオリンの生演奏から始まり、白川よう子衆院四国比例、石田まゆ同2区、笹井たかし同3区各候補が訴え。白川氏は、何でもトーンという企画で、外交、安全保障や経済、裏金や

「change希望をあなたと共に」の田村日本共産党委員長のポスターが街に貼られています。まさしく「change」して日本共産党を伸ばし、国民から信頼される政治を作って行きたいです。

お詫びと訂正 【民主香川社】先週の3月24日号を1890号としましたが、1893号の間違いでした。お詫びし、訂正します。

民主香川 定価 月100円 発行所 民主香川社 高松市藤塚町3丁目13-14 ☎(087)834-7311

### 異台鼓太

桜の満開ももう間近... 太鼓演奏あり、かくし芸ありの楽しい企画で、演説会とは変わった集会で、自民党政治を終わらせるため、次の総選挙で「行くぞ香川からも国会へ」と気合の入った集会でした。来るべき総選挙で必ず金権腐敗の自民党政治を終わらせる。国民が希望を持って暮らせる社会を作るためには、日本共産党を伸ばすことが一番です。季節は春です。政治にも春を呼び込みましょう。

## 映画のご案内

● 『戦雲』 (監督:三上智恵) 4/5~11(於ホールソレイユ)

2015年から8年かけ沖縄・南西諸島をめぐる取材を続けてきた映画作家でジャーナリストの三上智恵による渾身の最新レポート。安保三文書の内容から、九州から南西諸島を主戦場とし、現地の人々の犠牲を事実上覚悟した防衛計画が露わになった。しかし、その真の恐ろしさを読み解き、報じるメディアはほとんどない。全国の空港・港湾の軍事拠点化・兵站基地化が進められていることをどれほどの日本人が知っているか。本当の「国防」とは何か。圧殺されるのは沖縄の声だけではない。

● 『いのちの停車場』

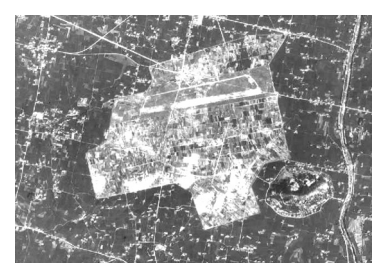
金沢を舞台に終末期医療に向き合う医師たちが紡ぐヒューマンドラマ  
出演 吉永小百合 松坂桃李 広瀬すず  
上映日時・場所 4/21(日) ①10:30 ②13:30 源内音楽ホール  
4/28(日) ①10:30 ②13:30 穴吹学園ホール(旧テルサ)  
5/18(土) ①10:30 ②14:00 高松国分寺ホール

## 講演会のご案内 フラワーフェスティバル

講演会「終わらない暴力 女たちの戦争と平和」 講師 渡辺 美奈さん(アクトティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和」) 和資料館( ) 日時 3月30日14~16時 会場 高松市男女共同参画センター会議室(たかまつシブイエ6階) 参加費 無料

## 郷土史辞典「笠居郷探訪」(一部抜粋) ⑭ 高松飛行場 著者 立山信浩

太平洋戦争末期の昭和19年(1944)1月着工し、同年8月に竣工した軍用飛行場。林村、川島町、三谷村、多肥村の4町村にまたがる270haが接収され、342戸が移転させられたが、施設のお大半が高松市林飛行場。米軍機の空襲から本土防衛を目指し、それまでの規模の小さい弦打愛国飛行場に代わる本格的飛行場として、突貫工事で造成された。しかし、昭和20年(1945)7月4日未明の高松空襲では、飛行機温存という軍の方針により一機も飛び立たず、県民の期待に応えることなく終戦を迎えた。戦後は再整備され、平成元年(1989)まで高松空港として用いられた。 ※ 重機もトラックもない中で突貫工事は、人力による海軍術で強行した。従事したのは勤労動員された市民、学生、生徒のほか、囚人や強制連行された朝鮮人であった。 ※ 当初の計画では十字形に二本の滑走路を造る計画であったが、結局長さ800m、幅15mの東西方向の一本のみを造成。飛行場の造成に併せて三谷村通り谷の燃料貯蔵庫、由良山防空壕、倉敷飛行機高松製作所を結ぶ道路なども整備され、近くの日山(ひやま)山頂に高射砲陣地が造られた。



昭和19年(1944)9月、陸軍明野飛行隊高松教育隊が開隊。訓練後は特攻隊として出撃していった。飛行隊開隊後は、滑走路周辺に擬装用の竹製模擬飛行機が置かれた。7月4日の高松空襲では高松飛行場への爆撃はなかったが、7月24日グラマン機延べ108機による大空襲を受け、飛行場としての機能をほとんど失った。この日、飛行機の格納庫がある由良山北麓(山北集落)はグライマン機の執拗な攻撃を受け9名が死亡した。由良山北麓には9名を慰霊する空襲犠牲者慰霊碑がある。昭和20年(1945)11月9日、連合国軍が林飛行場の爆弾・弾薬など約500トンと飛行機61機を爆破処理。

の地域から聞こえてくる作業員の声です。初めのうちは、それが人間の声だとは分かりませんでした。風に乗って遠くから、うめきのような、泣き声のような、悲鳴のような、叫びのような、それらが入り混じった何とも言えない音が、ときどき聞こえてくるのです。それは、強制連行されて働いている朝鮮人作業員が、蹴られたり棒で殴られたりして発するうめき声だということ。ある日、現場を見てそれが判ったのです。朝鮮人作業員が働かされている場所は、岩があったり石垣があったり、深い溝があったりする場所です。僕たちの場所とは大違いです。そんな厳しい場所で、日本人の監督に棒で叩かれながら、朝鮮人作業員が50、60人、死に物狂いでツルハシを振り下ろして作業しているのです。中学生の僕にとっても、強烈な光景でした。この日からは、またその声も聞こえはしないかと恐ろしく、なるべく東の方に避けて作業しました。でも西風の吹く日は、どうしても聞こえてきました。その声をとぎれとぎれに聞きながら弁当を食べるのは本当に苦痛で、苦しかったです。高松へ自転車を漕ぎながら、今日もある声がかえるのだから不安だ。高松飛行場の勤労動員で一番思い出すのは、このことです。